

# 大型図書紹介記事

【様式3】

選定年度	所属学部	氏名	大型図書タイトル	紹介記事
2019	経済学部	竹内 真彦	静嘉堂文庫所蔵 宋元版 (マイクロフィルム 版) ユニット2&3	<p>中国の宋代・元代(10世紀より14世紀頃)に刊行された宋元版は、刊刻技術にすぐれ、内容・形態ともその価値が高く評価されて来ました。</p> <p>なかでも、清末の蔵書家陸心源(1838-94)の遺書を中心として構成される静嘉堂文庫所蔵の宋元版は、よく知られています。</p> <p>陸心源の死後、清末の混乱の最中であって、その蔵書は散佚(さんいつ)の危機にありました。日本銀行総裁を務めたこともある実業家、岩崎彌之助(1851-1908)は静嘉堂文庫を創設し、広く漢籍を蒐集(しゅうしゅう)していましたが、1907年に陸心源の旧蔵書4万5000冊を一括購入。静嘉堂の蔵書としました。これにより、陸心源の蒐集した龐大(ぼうだい)な蔵書は今日までほとんど散佚することなく残り、世界的に貴重な文化財となりました。</p> <p>静嘉堂文庫の宋元版のなかには、天下の孤本と称される稀少本や現存最古の版本とされるものが少なくなく、中国・台湾・日本を通じて屈指のコレクションだと言えます。</p> <p>今回、龍谷大学図書館に配架されたマイクロフィルムは、その貴重なコレクションのうち、史部に含まれる蔵書(の一部)を写真撮影したものです。一部とは言え、『三国志』『晋書』など、中国正史の貴重な版本が収録されています。</p> <p>「宋元版美しい」とよく言われます。内容的なこともさりながら、一種の美術品として鑑賞する楽しみもあるのです。</p>